

議題、会議結果、会議の経過及び資料名

【議題】

- (1) 社地域小中一貫校基本・実施設計作成業務委託について
- (2) 今後のスケジュールについて

【会議結果】

- (1) ・ (2) 資料に基づき、審議しました。

【会議の経過】

1 開会

教育長あいさつ

2 議事

(1) 社地域小中一貫校基本・実施設計作成業務委託について

(委員長)

皆さんこんばんは。本当に皆様方、お忙しい中お集まりいただきましたことを厚く御礼を申し上げたいと思います。

8月にプロポーザルを実施しまして、最高の得点を得られました、大建設さんにもお越しをいただいております。本当に遠方のところ、大建設さん、ありがとうございます。

コロナの話なんですけども、全国的には都市部を除いて若干もう感染者数につきましても縮小してきたなど、思うわけなんですけども、数日前でしたが、隣接する神戸市の小学校で教職員あるいは児童がコロナに感染し、クラスターが発生したというふうな事案もございまして、加東市におきましても、特に学校現場におきましては、運動会の縮小であったり、これから迎える修学旅行につきましても、本当に感染対策ということで非常に先生方も御苦労なさっているんじゃないかなと推察するところでございます。

本日の会議でございますが、社地域小中一貫校基本・実施設計業務の委託についてということが主な内容になってございますが、この件につきましては、昨年1年間、我々が社地域にふさわしい小中一貫校というのはどういうものなのかということで、基本理念、コンセプト等の話をいただいたところでございますが、それらを実際に反映させた提案書を、この後、説明していただくことになってございますので、十分にお聞き取りをいただいて、これから時間をかけて、本当の意味での子どもたちが安心して学べるような基本設計、実施設計になってほしいなというふうに思いますので、十分な御協議をお願いしたいと思います。

それでは、1番目の社地域小中一貫校基本・実施設計作成業務委託について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

失礼いたします。それでは、経過等につきまして御説明させていただきます。

資料の1をご覧ください。

社地域小中一貫校基本・実施設計作成業務委託について御説明させていただきます。

1番、公募型プロポーザルの実施についてでございます。

社地域小中一貫校基本・実施設計業務の業者選定に当たりまして、公募型プロポーザル（企画提案方式）を実施しております。令和2年6月5日に公募を行いまして、受託候補者の選定に当たりまして、当業務委託に係る加東市プロポーザル審査委員会において、令和2年8月7日に審査をいたしました。

審査の内容ですが、審査結果報告書のとおりとなっております。資料の2をご覧ください。

こちらの審査結果報告書ですが、市のホームページで公表しております。

1ページをご覧ください。

選考の経過でございます。

実施の公告としまして、令和2年6月5日に参加業者を募りました。10者の業者から参加申込みがございました。

6月30日に一次審査を行いまして、10者の業者から6者の業者に絞っております。

8月7日に二次審査を行いまして、二次審査の選定結果通知を8月17日に行っております。

第1回の審査委員会を6月1日、第2回の審査委員会を8月7日に行っております。

8月7日の審査委員会ではプレゼンテーション及びヒアリング、審査表の集計・受託候補者の選定を行っております。

2ページをご覧ください。

受託候補者の選定です。

選定方法ですが、審査委員7名が実施要領に記載した評価基準に基づきまして、審査をいたしております。

評価基準でございます。

ア、事業所評価、イ、配置技術者評価、こちらが一次審査の評価の内容となっております。ウ、企画提案評価、エ、ヒアリング評価、オ、価格評価、こちらが二次審査の評価の内容となっております。

ウの企画提案評価のところでございますが、「加東市がめざす小中一貫教育が推進できる学校」、「快適でゆとりのある学校」、「だれもが楽しく通える安全・安心な学校」、「管理しやすく、使いやすい学校」、「地域を愛し、地域に愛される学校」、こちらの5つの提案評価なんですが、こちらが開校準備委員会、教職員の方で御協議をさせていただきまして意見をまとめた、設計方針、基本コンセプトでございます。

4番、審査結果のところですが、受託候補者としまして、株式会社大建設計大阪事務所に決定しております。

3ページをご覧ください。

5番、審査概要のところです。

一次審査では、10者から参加申込書の提出があり、参加資格要件の確認及び関係書類の評価を行い、参加申込者10者のうち上位6者を一次審査通過者としております。二次審査では、6者から提出された企画提案書につきまして、それぞれ30分間のプレゼンテーションとそれに対する20分間のヒアリングを実施しております。的確性、独創性、実現性、妥当性や業務に対する取組意欲などについて総合的に評価し、受託候補者を選定しております。

6番、企画提案書の審査講評でございますが、(1)の全体講評から、4ページに移りまして、(2)の個別講評をさせていただいております。

7ページに審査結果表ということで、点数の入った一次審査、二次審査の集計表を載せております。

受託されました大建設計の評価ですけれども、4ページの真ん中あたり、「その中に

において」というところでございます。

増改築施設を3階建てとして工期・工事費を抑える計画となっていること、各学年の学級数の変動に対する対応の自由度が高いこと、異学年交流や地域連携の施設計画、社地域のシンボルとなる、ひさしや屋根の要素を取り入れた外観、校舎と屋外運動施設のゾーニングが明快で、既存の教育環境が維持されているなどの点において高く評価をされております。さらに、工事中の工事車両進入路につきましても、安全上及び屋外運動施設の利用上の配慮がなされた提案となっている点も評価をされております。

その下のなお書きのところですが、審査委員から、こういうところも検討してほしいということで御意見を頂戴しております。

(2)の個別講評の受託候補者のところでございます。

全体講評に記載したとおり、配置計画は①という案になっていたんですが、増改築施設を機能的でコンパクトにまとめながら、全ての企画提案項目についてバランスよく高いレベルの提案となっています。企画提案のうち、特に「快適でゆとりのある学校」、「だれもが楽しく通える安全・安心な学校」、「管理しやすく、使いやすい学校」、「業務委託仕様書に掲げる基本方針・建設工期との整合性」の項目で最も高い評価を受け、ヒアリング評価、価格評価を含めた総合評価においても最も高い評価を受けたと報告をまとめさせていただいております。

資料1にお戻りください。

2番の受託者の企画提案内容についてです。

資料5が、社地域の小中一貫校の設計方針（基本コンセプト）でございます。

開校準備委員会や教職員の意見を基に作成をさせていただきました。①から⑤までのところ。「加東市がめざす小中一貫教育が推進できる学校」、「だれもが楽しく通える安全・安心な学校」、「快適でゆとりのある学校」、「地域を愛し、地域に愛される学校」、「管理しやすく、使いやすい学校」、こちらの設計方針を反映した企画提案書を大建設計に作っていただいております。企画提案書の概要版ですが、資料の3-1となります。A3カラー刷り両面の2枚です。

こちらの提案書の内容について、この後、大建設計から御説明をさせていただきます。

また、資料の3-2、全体配置図、各階平面図を添付させていただいております。

大建設計から建設費の概算見積額を出していただいております。建設費の概算見積額が63億5,622万1,300円となっております。

3番です。加東市社地域小中一貫校基本・実施設計作成業務委託の契約締結についてでございます。

履行期間は、令和2年8月27日から令和4年3月25日となっております。

業務委託料ですが、1億9,855万円となっております。税込みの金額でございます。

契約日が令和2年8月26日、受託者が株式会社大建設計大阪事務所でございます。

あと、本日机上に意見書の用紙をお配りさせていただいております。この後、大建設計から企画提案の内容を御説明させていただきまして、開校準備委員会の委員の皆様から御意見を頂戴したいと考えております。1から5までが設計方針、基本コンセプトの内容となっております。資料5を参考にさせていただきまして、こちらの設計方針に対して御意見を頂戴できたらと思います。提案内容の良いところも書いていただいてもいいですし、もう少しこうしたほうがいいのかという御意見も頂戴できたらと思います。

あと、基本コンセプト以外の御意見につきましては、6番のその他のところ、こちらに書いていただけたらと思います。ただし、全ての欄を埋めていただくというこ

とではございませんので、お気づきの点、ここを書いておきたいなと思うところに
つきまして、御記入をお願いできたらと思います。

また、こちらの意見書ですけれども、10月6日までに御郵送していただけたらと
思います。委員の皆様御意見を今後参考にさせていただいて、基本設計等に活か
してまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、株式会社大建設から御説明をさせていただけたらと思います。よろ
しくお願ひします。

(大建設)

皆さん、こんばんは。

このたびは、このような協議の場に参加させていただきまして、誠にありがとう
ございます。皆様の意見をいただきながら、よりよい社地域の小中一貫校を皆様と
一緒に創っていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

それでは、着席をして説明させていただきます。

先ほど紹介のあった資料の3-1と3-2でございます。3-1が提案書内容ですの
で、こちらをベースに説明させていただきます。

こちらの提案書は、開校準備委員会や教職員の意見を基に作成した設計方針、基
本コンセプトを十分読み込んで、またさらにそれに加えて、現在の中学校の教育環
境を守って、全体の事業費をどう抑制していこうかというようなことを我々のほう
で色々と考えまして、こういった提案書に反映させていただきました。

それでは、資料3-1の提案書の説明に行きたいと思ひます。

まず、1枚目です。

まず、「地域の歴史と記憶 コミュニティの息吹とともに 未来を担う子どもたち
を育む」そして「交流と成長の9年間を過ごす学び舎」として、どう変わっていく
かというようなことを考えてまいります。

左上からですね、一年一年を大切に成長を支える学習の場として我々が考え
たのが、発達段階に即した系統性のある教育環境、9年間を4年生、3年生、2年生
と段階区分をしております、各年代に適した学習環境を整えたい。また、学年の
垣根が低い、連続性のある学校がいいのではないかとということで、こちら右が断面
模式図になってございます。4・3・2製の学年区分でございますが、こちらの左側が
既存校舎のイメージ図、右が増築校舎のイメージ図となっております。

増築校舎の1階には1年生と2年生、2階には3年生、4年生、3階には5・6・7
年生、そして既存の校舎には8年生、9年生と、そういった各学年がこの真ん中の
異学年交流施設中庭を中心としながら連携していくようなイメージ、そして各学年
ごとの連携を促進するような計画をしていきたいと、そういった意味で、この赤い
丸の交流スポットというのを校舎の随所に計画をしまして、校舎内ICT環境も整
備した、こういった交流スポットで生徒が発表したり集会したり調べ物をしたり、
そういったことが日常的にできるような学校づくりにしたいということを考えまし
た。

続きまして、「やしろのにわ」が新旧の校舎をつなぎシンボルとなるというような
計画でございます。

「やしろのにわ」を中心とした一体感のある校舎づくり、勾配屋根の交流棟・屋
内運動場と「やしろのにわ」が新旧校舎をつなぎ、回遊を生み出しますというこ
とで、こちらが配置模式図になります。

既存校舎の下に「やしろのにわ」、現在の体育屋内運動場があるところの解体した
後のエリアが「やしろのにわ」というような中庭のイメージでございます。そちら
の南側のほうには教室棟、そして左には交流棟、右に屋内運動場棟、そしてこの既
存校舎を回遊動線とつなげると、各1階、2階、3階で回遊動線をつなぐということ

で、各生徒間の交流を生み出すような、そういった配置計画となっております。

また、こちらの交流棟と屋内運動場には木ルーバーの意匠を施しまして、社らしいぬくもりを表現したいと考えております。

右に、交流棟のイメージでございますけれども、ちょうどこの西側から入っていった1階が昇降口となっておりますが、勾配屋根に向けて、こういった木ルーバーを施した、こういった交流棟の計画を提案させていただきたいと思っております。

続きまして、今の学習環境を維持したまま新しい学校をつくるということで、既存の中学校をそのまま残す施設更新でございます。既存中学校校舎と運動場をそのまま残し、無駄のない計画を前提とします。また、今回、カセ池を埋め立てるといようなことがあるんですけれども、埋立地の経済的な活用策として提案させていただいております。カセ池の埋立地部分については、小グラウンドを想定して配置しております。ここに建物を造らない計画としております。小学校を前提として、そこのレベルを抑えることで、実際そこに使う土量を抑制して、全体の工事費を小さくするような計画となっております。

こちらにカセ池の断面図がございますけれども、黒い部分が現状の断面図となっております。そして、赤い部分が新しい各レベルとなっておりますけれども、ここが小グラウンドとすることで、校舎のレベルよりも低い位置に設定をすることで、ここに埋立てに使う土の量をできるだけ少なくしようという計画でございます。また、埋立地ですので、そこに校舎とか建物を立地しないということを前提に考えました。それで、小グラウンドを配置するような計画となっております。

右のほうに、正面昇降口のイメージ図でございます、こういった木ルーバー、外装の木ルーバーと内部の木ルーバー、入ったところに異学年の交流施設というものをご計画しております。そちらの奥には、先ほど申し上げた「やしろのにわ」、中庭をのぞくようなことができる昇降口のイメージ図です。

そして、その左側のパースになりますと、「やしろのにわ」、ちょうど屋内運動場の上空から「やしろのにわ」を見下ろしたようなパースになりまして、こちらが交流棟ですね。こちらが先ほどの説明した昇降口、昇降口エリアと異学年の交流エリアになります。

そして、後から平面図で申し上げますけれども、この中庭に面して色んな図書室とか音楽室とか、各学年の顔がこの中庭に向けて異学年の交流を育む、そういった断面的にも異学年の交流を育むような計画となっております。

それでは、裏のページに行きまして、配置図の説明に移りたいと思っております。

全体の配置としましては、これが既存のグラウンドでございます。こちらがカセ池を埋め立てた後の小グラウンドということになります。ブルーの建物がそのまま改修して、長寿命化の改修をして生かす建物、そして赤いところが新しい教室、増築棟です。そして、先ほど申し上げた交流棟と屋内運動場と「やしろのにわ」といったものを、この施設全体の回遊動線につくることで、にぎわいを創出していく。そして、その南側にはプール棟を配置しまして、テニスコートを8面、現状と同じテニスコートを確保しようという計画でございます。

続きまして、平面図の説明に移りたいと思っております。

1階でございます。一番下に凡例の色分けがございますけれども、一番左のオレンジが普通教室、緑のエリアが特別教室、そしてF Aという多目的コーナーとございますけれども、こちらはティーチャールームとか更衣室とか教材庫とか、そういったものも集まった、フレキシブルにいろいろと多用途に使えるようなフリーエリアが黄色でございます。そして、赤色が地域交流施設、そしてブルーが管理諸室、そして紫が体育館、体育諸室のイメージでございます。

まず、正門から入ってきて、こちらの昇降口、そしてこの「みんなのホール」、異

学年交流の施設を経て「やしろのにわ」、そして小体育館、柔道場と連続する計画になっております。

そして、北の既存校舎のほうにいきますと、職員室なり校長室、保健室、そして配膳室と一緒に、先生、教職員のラウンジというものを落ち着いたところに配置しようというような計画にしております。

そして、昇降口から入って南のほうに行きます。基本的に教室というものは南面にするというのが基本的な考えでありますので、一番日当たりのいい、このエリアに各学年の普通教室を持っていこうという計画でございます。

そして、各学年の教室前の付近にフリーエリア、先生のティーチャールームとか教材庫がこういったようなフリーエリアがございます。そして、特別支援のクラスルームも各学年に近い位置に、教育の一環としまして、近い位置に配置するような計画でございます。

あと、この「やしろのにわ」を臨むような形で低学年用の図書室を設けております。その図書室の配置レイアウトのイメージがこの一番左の拡大図になっておりますけれども、コンピューター教室と併設しての形ですけれども、読み聞かせコーナーとか、そういった低学年の方、児童たちがくつろいで情報なり、メディアなりに接することができるような、そういった環境をここの昇降口の近く、児童が毎日出入りするようなところに持っていくことが重要ではないかと考えました。

続きまして、2階の平面図になります。

昇降口の上部にはメディアライブラリーという交流施設ゾーンを設けております。そして、この南側には3年生、4年生の教室と、それと特別支援教室だとか1階と同じような形になっております。そして、特別教室が北側でございます。そして、既存校舎につきましては、7年生、8年生等が入るんですけれども、2階のほうには8年生と、あと高学年用の図書室といったものを配置しております。

高学年用の図書室は、こういった落ち着いた環境に配置いたしました。学校専用の図書室のイメージが左になるんですけれども、遮音性能を高めた自習ができるような学習エリアとか、調べ物ができるようなカウンターエリア、ブラウジングエリアとか、そういった高学年に適した図書室環境を充実させていきたいと考えております。

続きまして、3階の平面図になりますけれども、南側には5年生、6年生、北側に7年生、既存校舎には9年生と、そして小体育館の上には大体育館を設けております。

2階のメディアライブラリーのイメージが左にございまして、こちらは図書室まで行かなくても、日常の廊下の延長上に人々が交流できるようなギャラリーだとかサテライトライブラリーだとか会議室だとか、そういったものを2階に設えてはどうかというような提案でございます。

4階には、音楽室関係をまとめまして、騒音対策として、一番普通教室から遠いところに音楽室を配置している計画でございます。

では次に移りたいと思います。

続きまして、「ふるさとの景色を見て育つ、多彩な交流を通じて自立した人間力を育てる」というようなことで、地域の連携を深める「やしろのにわ」と題しております。要するに地域に開かれた小中一貫校をいかに創っていくのかということで、文教エリアとしての一体感、そして公共施設エリアとの連携を意識したような計画を行うことが、今回の敷地計画図の中では重要ではないかと思っております。

また、地域開放エリアの中に、これは皆さんと協議しながらですけれども、中庭を一体的に計画することで、学校生活のにぎわいが地域と連携してにじみ出るような、そういったオープンスペースを形成することができるのではないかとこのよう

なイメージを持っております。

また、社地域のシンボルとなるような新しい小中一貫校を創っていききたいということで、社らしい地域景観を形成していこうと考えました。佐保神社の門前町として発展した町にふさわしい、神社建築らしいひさしとか屋根のデザイン要素を新しい建物にも取り入れて、社地域の皆さんのランドマークとなるような、記憶に残るようなシンボルにしたいと考えております。こちらが佐保神社の写真で、こちらが社高等学校の体育館の写真を載せております。

また、現状の社中学校の周辺では、美しい環境が保たれてございます。こちらの環境と調和した開かれた学校を継続して創っていききたいというように考えております。

その下が全体の鳥瞰図になりますけれども、こちらは既存校舎と新しい増築棟、そして交流棟 3 階建て、屋内運動場の 3 階建て、大グラウンドと小グラウンド、その間にプール棟、テニスコートというような計画となっております。

ちょうど「やしろのにわ」を渡るところに勾配屋根とか木ルーバーとか、そういった社地域らしい、そういった設えを設けてはどうかというような提案です。あと、各グラウンドに設置した、こういった体育倉庫室とかプール更衣室とかにも勾配屋根をして、全体的に落ち着いた、調和の取れたような外観をつくってあげればと考えております。

続きまして、工事工程表となっております。そして、工事ごとに配置図を、ステップ図と言うんですけども、工程計画をしたものが下にございますので、こちらをベースに進めさせていただきます。

最初に凡例に行きたいと思うんですけども、工事中の範囲だとピンクのエリア、工事車両とかが入るエリアで、ここに生徒等が入ると危険だよというエリアということで考えていただければと思います。赤の線が来校者の動線、ブルーが工事車両の動線、建物については赤のタッチが新築の校舎、ブルーのタッチが解体する校舎、緑が改修する校舎工事の凡例です。星印が交通誘導員を配置する位置でございます。

それでは、ステップ 0 に移りたいと思います。まず一番最初にカセ池を埋め立てるといいう工事が入ります。ここで我々が考えたのは、日常の生徒さんの動線、グラウンド奥からこうした動線とこの工事車両を一緒にしない車道を徹底した計画が安全・安心の学校を生み出す基本だと考えておりましたので、こちらに工事進入車両を計画いたしました。こちらからブルーの点線で工事車両が入ります。そのときには、このネットフェンスはそのまま、バックフェンスはそのままにしながら、野球場のライト、右だけを若干北へ移動させて、この工事車両が進入する経路、最低のラインだけを確保することで、日常の生徒の動線を今と変わらないような計画を考えました。

ステップ 1 に移るんですけども、カセ池を埋め立てた後、新しい校舎を造るために、まず既存のプール棟の解体、あとテニスコート、既存武道場・部室棟、こういったところの解体が始まります。こういったときにも、工事車両は日常的な生徒の動線は妨げることがないような計画となっております。

ステップ 2 になるんですけども、既存体育館を囲む形で新しい校舎と交流棟と屋内運動場を新築していきます。同時に、小グラウンドとかテニスコートの工程をしていくような内容でございます。

ステップ 3 になりますと、屋内運動場ができた時点で、屋内運動場が使用開始となります。使用開始となった後に、屋内運動場を解体するような計画になります。そこで、我々が工夫したのは、コの字型に屋内運動場を囲んで工事、新築していったときに、この屋内運動場、既存のものを解体した搬出をどうしていくのかということを考えました。交流棟は鉄骨で計画をしております。解体後、搬出するための

工事車両が入れるような、そういった部分を残しながら、新築、大きくしていこうというようなことで、この解体と新築を同時にすることで工期を縮めていこうというのが我々の提案でございます。こういうことの方で新築をしていく計画になります。

続きまして、ステップ4に移りまして、先ほど申し上げました交流棟の1、2階の工事が残ると思われまますので、その工事を3か月間と考えております。そのときには工事車両はどうしても正門から入ってこざるを得ない。この3か月間だけは、こちらの工事進入路を使っていただければいいかと、このように考えております。

ステップ5につきましては、新校舎増築校舎が完成をして、引っ越しを行います。

ステップ6、引っ越しを行った後に緑の部分、既存校舎の長寿命化改修とともに我々が提案したのは、こちらの校舎にかかる費用をできるだけ抑制をして、既存校舎の中学校の学習環境も新築、増築でつくる学習環境にも劣らないような、すてきな学習環境の中で9年間過ごしていただきたいというような御提案をさせていただきました。

そういった改修工事を経て、予定では令和6年6月から新しく全校生徒が入るといような計画となっております。

簡単ではございましたが、以上で我々が提案させていただいた内容の説明となっております。御清聴ありがとうございました。

〔拍手〕

(委員長)

大建設計さん、ありがとうございました。

それでは、ただいまから委員さん方の質問等をお受けいたしたいと思えます。ただいま提案をいただきましたことについて、我々が1年間いろいろとコンセプトなり、教室の配置等あるいはプール等について、いろいろと議論してきたわけですが、今度は細かく棟ごとにその配置、あるいは体育館、特別教室、あるいは普通クラス等の配置について、そして工程表についても御説明をいただいたところで、何かこの箇所について、特にもう一度お聞きしたいとか、あるいはこの部分がわかりにくかったというようなこと、思いがあるかと思えますので、どうぞ御質問をお受けいたします。

(委員)

安全・安心な学校という観点から少しお伺いしたいことがあります。マイクロバスのロータリーのある駐車場と既存の校舎の間のスペースがどれくらいあるかということが非常に気になっています。といいますのは、中学生は正門から自転車で登校してくるんですけども、恐らく300名以上の生徒がマイクロバスの駐車場と校舎の間を通ることになると思うんです。今現在は北門に一番近い校舎に昇降口がありますので、この登校してくる自転車と、それから学校の校舎に入る生徒が擦れ違うことはほとんどないんですけども、新しい校舎は交流棟に昇降口があるということは、駐輪場から正門前を通って、そこの交流棟の昇降口に行くということになりますので、正門前に登校してくる自転車と、それから登校してきた、自転車を停めた生徒が全て、マイクロバスの駐車場の横を通ることになると思うんですね。

マイクロバスから降りてくる小学生も正門前を通ってくると思うんですが、ここに十分なスペースがないと、非常に擦れ違うときに自転車と歩行者が危ないかなというふうに思うんです。恐らくマイクロバスの駐車場の上を自転車が通ることは想定されていないと思うので、マイクロバスの駐車スペースと校舎の間をどれくらいのスペースがあって、どういうふうに通るのを想定されているのかということがすごく気になりましたので、御質問させていただきます。

(大建設計)

御指摘のとおり、こちらの幅につきましては、十分な広さを確保できていないかもしれないです。今一番狭いところで 4m 程度となっております。そういった意見をいただきながら、ロータリーの計画をさらに工夫をしまして、そうした日常の生徒さんの動線の交錯、自転車とバスの利用者交錯についても問題ない形で、こちらの、実はこの建物の 1 階エリアも含めて、どう改修できるのかということも含めて計画をしてみたいと思います。御指摘どうもありがとうございました。

(委員長)

ほかにございませんか。

(委員)

今、鴨川から来てる中学生はバスで通学していると思いますけど、乗り降りしているのはどこですか。

(事務局)

今の鴨川のバスは正門の前です。

(委員)

正門の前で乗り降りするんですね。それやったらいいです。ありがとうございます。

(委員長)

ほかございませんでしょうか。どのようなことでも結構です。

(委員)

御質問したいんですが、木製ルーバーの採用ですね。耐用年数とか、そういうようなのは、どれぐらい考えておられるのかというのが 1 点と、もう一点、私の認識では全て RC 造と解釈をしておりましたが、S 造を採用されると今お伺いしました。S 造というのは、平面図でいいますと交流棟とそれから屋内運動場で、ほかは RC ということでしょいか。

(大建設計)

まず、最初の質問でございます、木製ルーバーについてですけれども、交流棟の外部に木製ルーバーの提案をさせていただきます。また、この中、昇降口の内部のほうにも木製を採用していきたいなというようなことを考えております。昨今、木製のルーバーというものも構造建築でもよく採用されている中で、やはり耐久性、そういったことが懸念されることがよくございます。

そして、その中で一つの提案なんですけれども、外部に使う木皮について、そこに圧縮をかけて塗料を塗布したりするような、そういったいろんな商品がございますので、そういったものを提案させていただきながら、皆さんと協議をしながら、木目に見せる金属ルーバーもございますので、皆さんの意見をお聞きしながら最終決定していけたら考えております。

ちなみに、木材を外部に使うときの耐用年数になりますけれども、基本的には一番メンテナンスとしてかかるのはペンキ、塗装の塗り替えとか、そういったものが 10 年ぐらいたったときに色あせてきますので、メンテしていくことで、その木の寿命を延ばしていったらあげ、そういったことが考えられます。そういった塗装をやる工法もあるんですけれども、焼杉といいますか、表面を炭化させて、そこに色を出すような木材も入ってございますので、塗装ではなくて、耐用年数も増えていくようなことになろうかと思っておりますけれども、そういったものをいろいろ提案させていただきながら皆さんとよく協議して決定していきたいと考えております。

構造形式につきましては、既存の校舎棟は RC 造となっております。増築校舎棟も RC 造の 3 階建てに抑えた計画とするのが我々の提案でございます。そして、交流棟と屋内運動場は S 造としておりますけれども、これは工期短縮ということが一番の理由になっているかと思っております。工期を短縮するために屋内運動場を S 造にし

ました。そして、解体と新築と同時にするために交流棟をS造としました。S造とRC造等は耐震性能とかも含めて遜色なく今の技術であればできるということは、我々も経験、庁舎建築でも、S造であったり、RC造で庁舎を造ることもございますので、精度的には何の問題もないと考えております。工期を短縮して、中学生ができるだけ早く新しい校舎を体験することができるように、そういった工期短縮をメインとして進める提案をさせていただきましたという経緯になります。

(委員)

例えば、鉄骨むき出しの形式なのか、あるいはコンクリートの巻付けとかいうのがあるわけですね。鉄骨をどういうふうにやられるのかなということと、それからもし露出型になれば、クリーブといいますか、鉄分の劣化とかいうようなのがありますんで、かといって巻付きだったら点検ができないということもありまして、ちょっとお伺いしたい。

それと、当初の話だったんですが、委員が風荷重の問題をおっしゃってました。つい最近では、風速60m、70mとかいうふうな台風の風速もあるので、そのあたり大丈夫かなという心配があるんですけども、そのあたりをお伺いしたいなど。

ちなみに、普通のアルミサッシなんかになりますと、風速60mまでは大丈夫と思うけど、それ以上になりますと今の基準では対応できないような上限になってるようなので、ちょっと心配だなと思っております。

(大建設計)

まず、1つ目の質問です。鉄骨造に対して露出をするのか、何か巻いていくのかというようなことでございますけれども、ちょうど外観のパーズで交流棟のパーズがあったと思います。こちらで説明するほうが分かりやすいかと思っております。こちら側の柱が6本の柱がございますけれども、この柱には、中身は鉄骨でございますけれども、鉄骨造には耐火被覆というものがつくことが義務づけられております。そして、建物火災が起こったときに鉄骨が熱で柔らかくなってしまふのを防ぐ、そういった耐火被覆を施すことになります。その耐火被覆を覆う、また新たな材料で、何かしらの材料で覆っていくのが一般的な鉄骨造の考え方でございます。

そうした耐火被覆を塗料でやる場合もございます。そういった、どちらを採用するのかは、また実施設計の中で、これから教育委員会様と協議しながら決めていこうかと思っておりますけれども、耐火性能をまず確保するような計画、そして先ほどお話がありました、台風対策ですね。躯体自体が風に対してどのように対抗できるのかというようなことと、先ほどお話がございましたサッシ、またガラスの厚みとか、そういったものの必要な起こり得る風の対策をシミュレーションしまして、ガラスの厚みなどもそういった計算書がございます。そういった形で計算をしながら最適なものを造り上げていきたいなと思ってございます。

先ほどサッシの性能限界として60mの風速というお話もございましたけれども、費用をかければ、それ以上のものというものも商品としてはありますけれども、そういったことは費用対効果を考えながら、また3階建てや4階建ての建物に対して、どれぐらい風速が出てくるのかといったことも、よく超高層のマンションとかですね、風対策のシミュレーションとかもするような計画もありますので、我々が使っている建物を3Dで立ち上げてシミュレーションするようなこともできますので、そういった中で風の流れとか動きとかということも少し想定しながら、詳細を詰めていきたいなと考えております。

(委員長)

ほかにご覧いませんか。お願いします。

(委員)

2点、お聞きしたいことがありまして、1点目なんですけど、今の図であるもので、

昇降口のところなんですけれども、ガラス張りになってるようになると思うんですが、最近、夏場すごく暑くなると思うんです。この向きだと昼からすごく日が差ししてくることが考えられるんですが、その辺の遮熱というか、このあたりの対策はどんなふうにかえられているのかというのが1つ目です。

2つ目なんですけど、校舎の南側にプールが設置されているんですが、プールからの照り返しというのは大丈夫なんでしょうか。南側に1年生、2年生、3年生、4年生、5年生、6年生と教室があるんですが、こういうあまり学校で校舎の南側にプールがあるということ、自分が知っているところではどこも南側にはないので、照り返し等については大丈夫なのか、そのあたりを教えてくださいなと思います。

(大建設計)

まず、1つ目の質問になりますけれども、こちらに対しては西面になりますので、冬場は太陽が南西側からなんですけれども、春分、秋分のほうではちょうど真西、西ですし、夏になると北に夕日が沈むようなことになります。こちらで木製ルーバーを施しているのは、その西日対策というようなこともございます。そして、このルーバーのピッチとか角度とか、そういったものと、太陽が1年間を通じてどういう形で落ちていくのかといったことも、先ほど申し上げた3Dで建物として入力をしてシミュレーションはできますので、そういったことでルーバーのピッチなりも含めて、あと角度をちょっと寝かせるだけで夏の暑いときの西日を抑えていくことができますので、そういったことを踏まえた環境装置として、実はこのルーバーを提案させていただいているような話でございます。

あと、南側のプールにつきましては、学校の配置のセオリーといいますか、よくあることは、北側に校舎を置きまして南側にグラウンドというのが基本的にはベースになるかと思えます。そして、このプールの位置につきましては、絶対にここでない駄目というようなことではございませんので、それも例えば小学1年生、2年生が更衣をどこでするのか。例えば、教室でするのであれば、そこから近い位置が望ましいし、例えばこの更衣室でするのであれば、休憩時間の中に移動できる距離の範囲内に配置してあげるほうが児童には必要なことであること、そういったことをトータルで考えながら協議をしていければいいかなと思います。

提案の中では、カセ池のところの小グラウンドは1mぐらい下のレベルに想定して工事費用を削減することとしたり、こちら高い位置で生徒の行き来がしやすいということを優先して、南側に配置させていただきました。

そして、照り返しのことにつきましては、断面図がなくして今日は申し訳ないんですけれども、どうしてもこちら側の校舎に反射することもあります。ありますけれども、この普通教室ではバルコニーを設けてまして、この照り返しの部分がちょうどバルコニーの天井に光が当たると思えます。その光が当たると、そのバルコニー自体、あと普通教室自体が明るく感じるができるので、そうなるとその反射光があることがデメリットになることでもないのかなというふうには、室内環境だけでもって考えるといいのではないかというようなことは考えますけれども、配置につきましては、また皆さんの意見をいただきながら協議していきたいと思っております。

(委員長)

ほかございませんか。

[異議なし]

(委員長)

それでは、異議がないようですので、議事の1については以上とさせていただきます。

最初に、事務局から本日皆様方のお手元に基本設計に対する意見書ということで、

1 から 6 番目まで、それぞれに項目ごとに分けたものをお配りしておりますので、またおうちに帰ってから今日の説明をもとにもう一度意見等をまとめていただきまして、10月6日までに事務局に届けていただけたらと思います。

(2) 今後のスケジュールについて

(委員長)

それでは、今後のスケジュールについてお願いします。

(事務局)

失礼いたします。資料は4になります。

令和2年度の社地域の基本設計・実施設計業務のスケジュール案です。

令和2年度には、基本設計を作っていこうと考えております。また、令和3年度には実施設計ということになります。開校準備委員会の皆さまと、また教職員の方々と意見を交わしながら、まずは基本設計を完成させていくということで、今後皆さまの御意見をいただきながら修正を入れていくという作業が生じてまいります。皆さまの意見を参考にさせてもらえればと思っております。

ただ、相当大幅な変更とか、そういうのはプロポーザル方式でやっております関係もあります。大幅な変更というのは避けたいなというのはありますので、よろしくをお願いします。

教職員の皆様も今月の28日、全教職員を対象としまして、同じように説明会を開かせていただく予定です。教職員の意見と、あと開校準備委員会の意見を兼ね合わせながらつくっていこうという計画にしております。タイトなスケジュールになっています。秋になりましたら先生方も学校での行事等もいろいろありますが、その頃、真に申し訳ないんですけども、対応していただければと思っております。

次回のスケジュールに関しましては、意見書、先ほど10月6日にいただきたいとお願いしました、その6日の分を受けまして、第4回施設整備委員会を開かせてもらいまして、その意見を参考に再度協議をしていただければと思っております。10月の後半に開校準備委員会、その意見の聴取をしていきたいと思っております。12月には第6回目、1月には第7回目と、最終的に基本設計を作っていくこととなります。並行しまして、教職員も同じように教職員プロジェクトチームというのがありますので、そちらと協議をしながら基本設計を構築していくという作業にしていきたいと思っております。皆様にはお忙しいところ何回もとなるかもしれませんが、よろしくお願ひしたいと思っております。

以上です。

(委員長)

スケジュール案について何か質問ございますか。

[異議なし]

3 閉 会

【資料名】

- | | |
|----------|---|
| 資料 1 | 社地域小中一貫校基本・実施設計作成業務委託について |
| 資料 2 | 令和 2 年度加東市社地域小中一貫校基本・実施設計作成業務委託
公募型プロポーザル審査結果報告書 |
| 資料 3 - 1 | プロポーザル企画提案書（概要版） |
| 資料 3 - 2 | 全体配置図・各階平面図 |
| 資料 4 | 令和 2 年度社地域基本設計・実施設計業務スケジュール（案） |
| 資料 5 | 社地域小中一貫校設計方針（基本コンセプト） |

令和 2 年 1 0 月 2 8 日